

長野県革新懇ニュース

2020年3月号
発行日3月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971

250

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 塚原弘昭さんインタビュー
- 2面 「近現代信州の歴史回廊」 桂木恵さん
- 3面 「微用工問題への「誰も言ったことのない」視点」 毛利正道さん
- 4面 河西綾さん
- 5面 農業現場で感じる気象変動(危機) 菊池敏郎さん
本の紹介『地学でめぐる信濃三十三番札所』 花岡邦明さん
読者の声、漢字バスル
- 4面 「雨よ降れ」「無常といふ事」 窪島誠一郎さん
「写真で辿る信州と戦争」 北原高子さん
映画評論「パラサイト」 内山到さん

長野県革新懇

検索



1944年千曲市(旧戸倉町)生まれ。東北大学理学部、名古屋大学大学院理学研究科博士課程を経て、科学技術庁防災科学技術センター(現防災科学技術研究所) 研究員・研究室長として勤務。1992年より信州大学理学部教授。現在、信州大学名誉教授。1998年から、父親の跡を継ぎ、真言宗智山派明徳寺住職。

争いを好まない人間の本性に 日本国憲法は合致している

塚原 弘昭さん

(明徳寺住職、信州大学名誉教授)

立ヶ花の狭窄部は 断層運動により形成

Q 台風19号では千曲川堤防が破れたり越水して大変な被害が出ました。その原因として立ヶ花の狭窄部が指摘されていますが、どうお考えですか?

長野市北部と中野市西部の境にある立ヶ花の狭窄部は、善光寺平の西縁を走る断層がちょうど立ヶ花付近で千曲川を横切り、この断層が繰り返し動いた結果できたものです。断層が動く、断層の北西側(千曲川の下流側)が数メートルほど隆起し、上流側が沈降します。もし、千曲川が初めから現在の中野市の延徳田んぼ方面を流れていれば、断層の動きに邪魔されなかつたはず。しかし、地形が形成され始めたころは、現在の立ヶ花付近に流路があったために、活断層の動きで善光

寺平が沈降して水浸しになると、隆起はしても一番低い立ヶ花の狭窄部を流れます。この活断層が動くたびにこの現象が繰り返され、次第に浸食されて深くなり、今の地形になったわけです。

治水対策の一環として、狭窄部を広くすることが検討されているようですが、立ヶ花の形成過程も考慮して、具体的な対策は検討することが必要だと思います。

動く確率が極めて 高い松本東縁断層

Q 長野県内の地震の可能性についてお聞かせください?

善光寺平や松本平のような大きな盆地は、同じ断層が、同じ動きを、およそ1000年に一度、何10万年もの間繰り返してきたことよってつくられてきたものです。二つの盆

地は日本でも有数の大きな平ですが、それは日本でも有数の大きな断層が動いている結果です。善光寺平だったから長野盆地西縁活断層帯、松本平だったから松本盆地東縁活断層帯と呼ばれるもの。松本盆地東縁活断層帯は糸魚川-静岡構造線活断層帯(糸静活断層帯)の一部です。

善光寺平では大変な被害を生んだ善光寺地震が1847年に起きています。170年ほど前のことです。日本の内陸部の活断層の地震の発生頻度は高いものでも1000年に一度くらいです。善光寺地震規模の地震は少なくとも100年や200年の間は起こらないと考えられます。

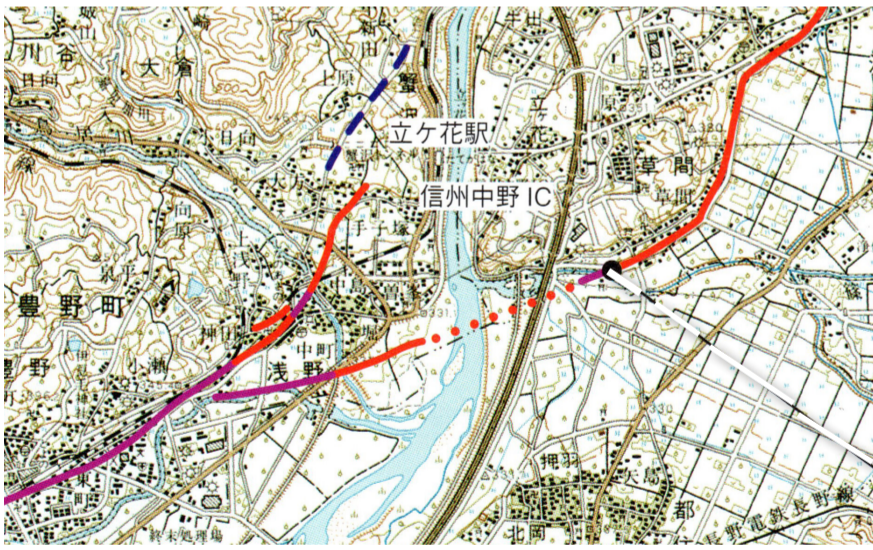


図1 立ヶ花を横切る断層。図中の赤い点線。

一方、松本東縁断層帯については、地震が発生してからすでに1000年以上が経過しているの、内陸部の断層としては一番動く確率が高い。松本東縁断層帯を含む糸静活断層帯については2種類の地震が

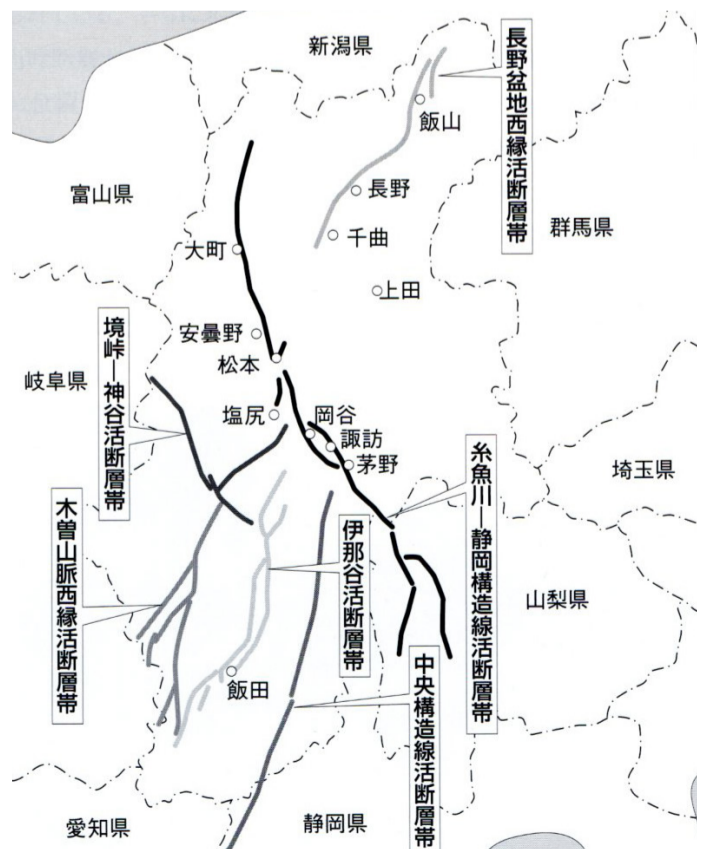


図2 長野県内の活断層

考えられています。一つは、断層帯の北部(松本以北)が動く場合で、塩尻以北から小谷の1帯、上田から長野の1帯で震度6強以上、特に松本や安曇野では震度7になると予測されています。もう一つは、断層帯の中部(松本以南、富士見以北)が動く場合で、北部が動く場合より強震度の範囲は広がり、諏訪茅野、富士見方面も震度6強から7になると予測されています。

県内で確認されている7本の活断層帯について、それが動いた場合の予想震度が公表されているので、ぜひ確認いただきたいと思っています。

南海トラフ地震は 県内にも大きな影響

Q 南海トラフ地震の影響はどうでしょう?

先ほど述べたように、内陸部ではいくらか活発な断層でも1000年に一度ぐらいしか動いてきません。一方、問題となっている南海トラフなどの海の断層

被害軽減の対策を 住民自らが講ずる

Q どのような心構えで災害に向き合っていくべきでしょうか?

重要なことは、自分の住んでいるところがどんな場所かを知り、日ごろから対策を考えておくことです。実は、冠着山の麓のこの辺一

【2面に続く】